

## 次号予告 (第51巻・第11号)

## Review article

- Review of death certificate diagnosis of coronary heart disease and heart failure in Japan .....Isao SAITO  
Development of certified health education specialists (CHES) in the United States: Focusing  
on the CHES responsibilities and competencies.....Keiko SAKAGAMI

## Original article

- Estimation of disease-specific costs in health insurance claims: A comparison of three methods  
.....Etsuji OKAMOTO, et al  
Willingness of pay for a public health checkup program: Assessment by the travel cost method  
.....Kenji OHSHIGE, et al  
Influence of self efficacy for health promotion on functional decline of elderly living in a rural  
community Japan .....Yoshiharu YOKOKAWA, et al  
Factors affecting attitudes toward care of elderly mothers.....Mio OHTA, et al  
Changes in functional capacity in older adults living alone: A three-year longitudinal study  
in a rural area of Japan .....Emiko SAITO, et al  
Breast-feeding and bottle-feeding of twins, triplets and higher order multiple births  
.....Yoshie YOKOYAMA, et al  
Comparative socio-cultural analysis of smoking behavior and difficulty of quitting smoking in  
Japan and Thailand .....Shun ITO, et al  
Intestinal parasitic infections and socioeconomic status in Prek Russey commune, Cambodia .....Kaori KITA

## 編集 後記

編集後記の執筆を初めて担当することになりました。これまでは査読や編集を直接担当した論文とタイトルから興味を覚えた論文だけを見るが多かったのですが、今回は編集者の立場から雑誌に掲載する全ての論文をみました。

原稿提出の締め切りが迫り、大急ぎで読み進んでいく過程で、実に新鮮かつ有意義な気分になることができました。つまり、(あまり宜しくないのですが) 普段はあまり注意を払わなかった専門外の分野の論文を改めて読んでみると、各分野で行われている事業や研究の状況、懸案事項、分野間の関係性などがみえてきて、公衆衛生全体としての実情が(錯覚かも知れませんが)俯瞰できたような気になりました。また、分野は異なっても共通する「公衆衛生の文化」の存在が感じられました。これは、雑誌の査読基準に公衆衛生的意義が含まれているので、ある意味、当然なのでしょうが……。さらに、今号は特集記事はないのですが、全体として共通するキーワードがあるような気もしました。それは「新しい健康観」あるいは「多様性、QOLを重視した健康観」でしょうか。

WHOの健康の定義は公衆衛生の基本ともいえる話題ですが、「健康概念の変遷」は、興味深い内容でした。「高血圧発症に関わる家族歴の意義」はハイリスク者の把握によるテイラーメイド医療あるいは個別的健康教育を考えさせます。「SHS」は幸福という言葉に集約され、QOLを重視する最近の健康観を連想させます。同様に、「ひとりて遠出できない」という視点もQOLに関連します。「交代制勤務」に関する論文は生活全体からの視点に言及し、新しい枠組みの健康観を示唆しているように思います。「携帯電話を活用した健康教育」は新しい健康管理の方法で、多様性に通じるように思いました。

以上、公衆衛生という分野も、他の領域と同様、専門分化が進んでいますが、やはり共通する独特の文化があり、私どももその集合体の一部を担っていると感じた時、有意義な気分浸れたように思います。今後は、真面目な読者には当然のことでしょうけれど、せめて論文の抄録は全部読んでいきたいと考えています。

(内藤義彦)

## 12号予告 (第51巻・第12号)

## 原 著

- 埼玉県下中学生における有機溶剤乱用について  
.....嶋根卓也, 他  
長期授乳婦の骨密度に及ぼすカルシウム摂取量増  
大の効果および長期授乳婦後の骨密度の回復  
.....米山京子, 他

## 資 料

- 行政機関に従事する保健師に期待される実践能力  
に関する研究  
—デルファイ法を用いて—.....大倉美佳  
全国市町村における老年人口割合と健康手帳の活  
用状況との関連.....福田英輝, 他  
高齢者福祉施設における効果的な情報伝達システ  
ムの検討  
—疥癬対応マニュアルの活用状況の分析から—  
.....越田美穂子, 他

第51巻9号につきまして下記のとおり訂正願  
います。

759頁 表6 摂取量の差 (g) → (mg)